
バカと能力と召喚獣

やまたい

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

バカと能力と召喚獣

【Nコード】

N1270S

【作者名】

やまたい

【あらすじ】

バカテス元ネタとした、ギャグになるであろう小説。

禁書原作のつもりが、土台がバカテスになってた。

シリアスシーンがあるかはわからん。

きつとまだ原作は増えるなww

原作用崩壊注意。

#0 プロローグ

目が覚めると、俺はどこかに倒れていた。

・・・ここは・・・どこなんだ・・・？

・・・雨が降っている。

要するに、俺は雨に打たれているようだ。

ただ、感覚が麻痺していて、何も感じない。

だめだ、もう意識がもたない・・・

そしてまた、俺の意識は闇に落ちて行った。

そして、また、数時間後。

今度は、どこかのベッドに寝ていた。

目の前には、一人の少女。

・・・え。

ちよつとまで。いま俺はどんな状況なんだ？

だれか詳細を頼む。

ほんとに・・・

これは何なんだ――――――！

#0 プロローグ（後書き）

えーと・・・

はじめまして、やまたいです。

もっとマシな名前がなかったのかと突っ込まれそうですが・・・
その通りです。

更新は：かなり遅いでしょうね W W
では、また。

#1 そんで結局何なのさ？

まず、今まで何があったのか整理しよう。

<以下回想>

3月某日。

俺はとあるお店に向かっていた。チャリで。

なぜかと言うと、ベイブレードをやりに行くためだ。

もう中学生なので、大会には参加できないが、ベイ太（疑似ベイバトルシミュレーション装置。勝つとベイポイントがもらえる。）なら年齢制限はない。

そして、ベイポイントをためると、限定ベイがもらえるのだ。

ちなみに俺は、ベイに没頭すると、何時間もやっている危険人物である。（母親談）

この日も俺は、マーキュリアヌビウス目当て（60000ポイントで交換）に、ベイ太に向かっていた。

猛スピードで。（ちなみに、俺はサイクリングに出かけても、何時間も帰ってこない。母親いわく、糸の切れた凧らしい。）

そして、いつもの車通りが少ない交差点に差し掛かる。

いつも猛スピードでスルーしているため、いつも道理通り抜けようとした。猛スピードで。

いつもなら「反省はしていない」となるのだが、今回は違った。

横から結構なスピードでシロネコヤマト宅急便のトラックが走ってきた。（ちなみにこの時俺は信号無視をしていた。）

この後は予想がつかだろう。

そのままドーーーーーーン！ である。

あれ？これって俺が悪いじゃん？

<回想終わり>

心残りは、マーキュリアヌビウスが手に入らなかったことである。

あと、彼女がいなかったこと（ry

で、この（現在の）現実に目を向ける。
俺はベッドで寝ている。
容姿は鏡がないのでわからない。
で、横には一人の少女。
髪は茶髪で短髪。
整った顔立ちに発展途上人（ry
あれ、どっかで見たぞこの人。

少女「ねえ、大丈夫？」

ああ、えーと、確か…

「お兄ちゃん」

・・・は？

お兄ちゃん？

onittyan?

brother?

「えーと・・・」

「もう、忘れたの？・・・じゃ、一発…」

ちよつと待て、この人は何をしている？

なんだか辞書を高く振りかざそうとしているんだが…

俺「まて、それは叩くものじゃないよね？とりあえず説明書（注：
ありません。）をよんでから・・・っ！！」

#1 そんで結局何なのさ？（後書き）

どうも。久しぶり？の投稿です。

ベイブレードの説明が大変長くなったWW
なかなかパソコンを使えません。

原因：DSのやりすぎ。

ちなみに筆者は、現実でもベイブレード&サイクリング中毒です。
そして実際に事故りました。

しかもここまでの人生13年に二回も。
まじで。

それでは、また今度会いましょう。

#2 現状確認の時間です。

少女「で、本当に私の事覚えてないの？」
俺「はい。」

俺とその少女は向かい合って正座している。

少女「それではもう一度殴りましょう」

俺「ちよ、ちよっとまて……」

少女「ここに釘バットがありまーす」

俺「殺す気だな！？お前殺す気だな！？」

少女「え？殴れば記憶も戻るでしょ？」

俺「そーじゃなくて！口頭で説明しろ！」

少女「へーい」

俺「最初から分かれ！そして悲しそうな顔しない！」

少女「はーい………」

ー中略ー

俺「なるほど。要するに、俺はお前ー御坂美琴の幼なじみ、と。」

美琴「そう。」

俺「で、俺は交通事故で車にすっ飛ばされた。」

美琴「そう。」

俺「なるほど、だいたい分かった。」

美琴「そう。じゃあ、記憶を完全に戻すためにもう一度……」

俺「待て！！死ぬ！今度は本当に死ぎゃあああああ！！」

俺「本当に死ぬかと思った・・・」

美琴「そんな痛かった？」

俺「痛いよ!!」

美琴「そう?ごめん・・・」

俺「まあ、いいけど・・・一つ、聞きたい事がある。」

美琴「何?」

俺「俺・・・ベイブレード持ってる?」

つづく!!

#2 現状確認の時間です。(後書き)

どうも、やまたいです。

前回また今度とかいっというて同日投稿です。

もしかしてもう一話くらい投稿するかも
ではでは。

#3 ベイブレードはあるようです。

今、俺はベイスタジアムにいる。
いる、という表現は変に聞こえるかもしれないが、いるものはいるのだ。

目の前にはアニメ並みにでかいベイスタジアム。
そして、ベイランチャーを構えている少年。
ちなみに、俺も同じポーズである。
これが何を意味するかと言うと……

「ゴゴゴゴ！」

「ゴゴゴゴ！」

「ゴゴゴゴ！」

ベイバトルである。

「ゴゴゴゴ……シュート！」

観客の掛け声と共に、ベイをシュートする。

俺のベイはバサルトケルベクスGB145SF、アタックタイプ。
対する相手のベイは、フレイムサジタリオC145S、スタミナタイプ。
要するに……

「行け！サジタリオ！」

弓矢ケンタである。

もちろん客席には銀河たちもいる。あと美琴も。

以下、ケンタ：ケ、 美琴：美、 銀河：銀。

銀「頑張れー！ケンタ！」

美「負けたら承知しないわよ！！（ビリビリッ）」
ちよっと待て。今ビリビリって音がしたんだが。
まあ、今はバトルに集中しよう。

相手はスタミナタイプ。持久戦には持ちこめない。
だが、こいつの攻撃力を持ってすれば、一気にケリを付ける事も可

能だ！

俺「いけ！ケルベクス！！」

サジタリオに向かつて、一直線に走らせ、攻撃を仕掛ける。

ケ「向かい撃て！！」

ほう…なかなか勇氣あるじゃないか。

俺「なら遠慮なく！」

ケルベクスが一気に加速する。

ガキン！

互いのベイがぶつかり合う。

持久型のサジタリオは攻撃に耐え切れず、数メートル後ろに弾き飛ばされる。

だが、スタジアムアウトまでは行かず、しっかりと回っている。

俺「なかなかやるじゃないか！」

ケ「そつちこそ！」

なかなかいい手応えだ

だが、こんなことで諦めるようなケルベクスではない。

何度も何度も攻撃を仕掛ける。

だが、決定的なダメージが与えられない。

なら…！！

俺「必殺転技！ケルベクス！スカイ・シューティング・アタック！

！」

ケ「なっ！？」

俺「いけえっ！」

掛け声と同時に、ケルベクスが空高く飛び上がる。

だが、我ながら妙なネーミングセンスだ。

俺「おらああああああっ！！」

サジタリオ目掛けて、一気にケルベクスが急降下する。

そして、サジタリオのクリアウィールにケルベクスの攻撃がヒットする。

ケルベクスが攻撃を止める頃には、サジタリオはだいぶ弱っていた。

だが。

ケ「サジタリオ！フレイムクロウ！」

俺「なっ…!!？」

まだそんなパワーが残っていたとは…!

ケ「今度はこっちの番だ!!」

ガキン!

今度はサジタリオの攻撃がケルベクスにヒットする。

俺「くっ…!!」

「

「なんか客席で美琴がボソボソとなんか言ってる。なんかコワイ。

…とにかく!

まだケルベクスの体力はある。

対してサジタリオは、先の攻撃の反動でよろけている。

…今だ!!

俺「行けっ!!」

ケ「あっ!!」

弱っているサジタリオに、全速力でケルベクスが突っ込む。

そして……

キンッ!!

サジタリオが、吹っ飛んだ。

そして、スタジアムの外で、カラカラと金属音を立てて、転がって

いた。

パシッ!

ケルベクスが俺の手元にとんできて、それを俺がキャッチする。

そして、客席から歓声があがる。

WINNER——神山大樹withバサルトケルベクス!!

俺「よっしやああ!!」

美「やったあ!!」

ケ「そんな……」

ケ「ありがとう、いい勝負だったよ。」

俺「こちらこそ！」

互いに握手を交わす。銀「すげえ！お前すげえよ！今度俺ともバトルしようぜ！！」

俺「ああ！」

この日、友達が増えた。

ところで。

なんで俺が大会にいるかと言うと。

> 以下回想<

俺「俺って、ベイブレード持ってたっけ？」

美「そりや持つてるでしょ。誰でも持つてるわよ？」

俺「よっし！！これで生きていける！」

美「何なら、大会でも行ってきたら？」

俺「大会？」

美「そ。誰で参加できるわよ・・・って、ちよつと！？今日じゃないわよ！？」

俺「ちよつと出かけてくる！」

ついでに、ベイ太もあるし、前世のポイントも受け継がれているよ
うだ。

それに、ニコ動やツイッターもあるし、アカウントやデータも受け
継がれている。

これで俺は生きていける・・・っ！！

ていつで・・・

つづくっ！

#3 スイフレードはあるようです。(後書き)

どうも。

結局1日で3話も投稿してしまったww

とこらで。

DSからも投稿できるんだね。便利だ。これでパソコンできなくても投稿できる！！

それでは、また次の投稿まで気長に待っていただければ幸いです。では。

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になるうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n1270s/>

バカと能力と召喚獣

2011年10月8日18時48分発行